

第2節 地域や家庭における環境教育や環境保全活動の促進

1 地域単位での環境活動等の推進【環境政策課】

(1) ふくい親育ち・子育て環境力向上事業

保育園（所）・幼稚園、小学校において、環境団体等が持っている質の高い環境教育プログラムを導入し、親子で参加することにより、子どもたちはもちろん、保護者に対しても環境教育を行うことで、広い世代における環境を思い行動する人づくりを図る「ふくい親育ち・子育て環境力向上事業」を展開しました。

この事業を活用し、県内各地において、夏は川や海遊び、秋は収穫体験、冬は雪遊びなど、季節に応じた自然体験を親子で実施しました。

表5-2-1 自然体験種類別の参加者状況（平成27年2月末現在）

自然体験の種類	参加児童数	参加保護者数
川での植物観察や生き物観察	126人	36人
山での自然散策や植物観察	462人	221人
海での生き物観察や地引網体験	165人	51人
収穫体験（みかん狩り・芋掘り等）	975人	371人
季節を感じる体験（雪遊び等）	903人	396人
自然を使ったレクリエーション	1,393人	987人
合計	4,024人	2,062人



親子での自然体験の様子



(2) 環境アドバイザー制度*1

「美しい福井の環境を県民の手で守り育てる」ことを目的に、平成6年6月から、環境アドバイザー制度を導入しています。

この制度は、地域や学校、公民館、企業などが実施する環境問題に関する学習会等へ環境アドバイザーとして講師を派遣するもので、現在66名の環境に関する専門家が登録されています。

学習会等の内容は、環境問題やリサイクル、省エネ、自然保護などの講座や山や海での自然体験などがあり、皆さんに楽しく環境について学んでいただいています。

この制度により、県民の環境問題への関心や環境保全に対する取組みの意識が高まっています。

表5-2-2 環境アドバイザー派遣実績

	25年度	26年度
派遣件数	78件	67件
受講者数	2,934人	2,361人

（注）平成26年度は平成26年11月末時点



環境アドバイザーによる学習会



*1環境アドバイザー制度：環境保全についての有識者や環境保全活動の実践者を「環境アドバイザー」に登録し、公民館、各種団体や学校等が主催する環境問題に関する学習会、講演会に講師として紹介、派遣する制度です。

分野別施策の実施状況

環境を思い行動する人づくり

(3) SATOガール・SATOボーイ育成プロジェクト

【自然環境課】

県では、里山への関心が薄いといわれている若者を対象に、楽しみながら福井の里山の魅力、保全の大切さを学ぶ連続講座を開催しました。

平成24年度から全18回を数えた「SATOガール・SATOボーイ」体験プログラムでは、毎回、里山で実際に生業を営む方々を講師としてお招きし、福井の里山の魅力、多様な伝統技術について、体験を交えながら楽しく学ぶことができました。



六呂師高原を満喫 湿原散策の様子

表5-2-3 平成26年度「SATOガール・SATOボーイ」体験プログラム

テーマ	実施日	会場	講師	内容
六呂師高原を満喫 ～湿原散策とミニよしずづくり～	6月29日(日)	池ヶ原湿原他 (勝山市)	小林 則夫氏 (池ヶ原湿原連絡協議会 会長)	<ul style="list-style-type: none"> 高原の湿原散策 湿原の生き物観察 ミニよしずづくり 湿原保全の活動紹介
五湖のめぐみをまるかじり[1] ～和船漕ぎとシジミ漁体験～	8月2日(土)	久々子湖 (美浜町)	田辺 義郎氏 (コミュニティビジネス ラ・しじみ 代表)	<ul style="list-style-type: none"> 和船漕ぎ体験 シジミ漁体験 シジミ汁の試食 シジミの生息環境再生活動の紹介
五湖のめぐみをまるかじり[2] ～マイ梅酒(梅ジュース)づくり～	8月3日(日)	若狭町梅加工 体験施設他 (若狭町)	大下 恭弘氏 (若狭町在住 梅農家)	<ul style="list-style-type: none"> 梅酒、梅ジュース作り 梅畑散策、梅農家見学 特産福井梅と自然環境、地域の生活とのつながりを紹介
秋の野草に学ぶ ～セイタカアワダチソウで草木染～	10月11日(土)	劔岳公民館他 (あわら市)	大橋 広子氏 (もりみちプロジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> 秋の里山散策 外来植物の駆除体験 セイタカアワダチソウでの草木染 秋の七草、里山保全活動の紹介
ふくい和食をたしなむ ～報恩講料理づくり～	11月15日(土)	林正寺 (越前市)	楠 宏彰氏 (林正寺 住職) 鹿浦 聡子氏 (端政寺 坊主)	<ul style="list-style-type: none"> お寺の内部拝見 報恩講・報恩講料理の紹介 報恩講料理の試食 里山と報恩講料理のつながりを紹介
都会でシカでおもてなし ～シカ肉調理実習・試食～	1月24日(土)	アオッサ調理実 習室(福井市)	藤本よしこ氏 (若狭町在住 料理家)	<ul style="list-style-type: none"> シカ肉調理実習 ジビエ料理の試食 里山の鳥獣害について 都市部でできる里山保全



五湖のめぐみをまるかじり[1] シジミ漁の体験



五湖のめぐみをまるかじり[2] 梅農家見学



秋の野草に学ぶ セイタカアワダチソウを使った草木染



ふくい和食をたしなむ 報恩講料理の紹介

分野別施策の
実施状況

環境を想い
行動する人づくり

◆第2部 分野別施策の実施状況

(4) こどもエコクラブの応援【環境政策課】

「こどもエコクラブ」とは、環境省が、子どもたちの主体的な環境学習や実践活動を支援している環境活動のクラブです。2人以上の幼児から高校生までの子どもと、活動を支える1人以上の大人（サポーター）でクラブを登録することができ、学校のクラスと担任の先生、家族単位、町内の子ども会など、気軽にクラブを作ることができます。平成26年度11月現在で12クラブ、727人が登録しており、様々な活動を行っています。

また、全国事務局では、こどもエコクラブを対象とした壁新聞コンクールを毎年行っています。あわら市の吉崎赤手ガニ環境調査隊は、平成24年度から2年連続で特別賞に当たる「早稲田大学賞」、「エコマーク賞」を受賞し、平成26年3月に東京で開催された全国フェスティバルに本県代表として参加し活動報告を行いました。

なお、こどもエコクラブの本県事務局を、環境ふくい推進協議会（後述）が担っており、各クラブの活動に対し、環境に関する講師派遣を行うほか、上記コンクールに対する支援も行っています。



あわら市の吉崎赤手ガニ環境調査隊の壁新聞（平成25年度）

(5) 環境美化運動の促進

① クリーンアップふくい大作戦

地域の環境保全に関する県民意識の啓発を図ることを目的として、平成4年度から、県内一斉に住民が主体となって美化活動を行う「クリーンアップふくい大作戦」を実施しています。

平成17年度からは、県内全域にまたがる環境美化活動の強化週間を季節ごとに年4回設け、市町は自治会などと一体となって地域ぐるみの美化活動を実施しています。



平成26年度クリーンアップふくい大作戦ポスター

＜平成26年度実施状況＞

- 統一行動期間
 - 平成26年
 - 6月1日～8日 環境月間
 - 9月7日～14日 ボランティア月間
 - 12月7日～14日 不法投棄等防止啓発強調月間
 - 平成27年
 - 3月8日～15日 雪どけ後
- キャッチフレーズ
「生かそう 小さな汗 私たちの環境に」
- 実施内容
 - ・市町が設定した拠点地区等における美化活動
 - ・民間団体や企業での、それぞれの団体活動を活かした特色ある美化活動
- 参加人数 約106,920人（平成25年度）
- 県の取組み
 - ・自然公園内の環境美化活動等の支援
 - ・河川の清掃、草刈り、植栽等を行う活動団体への支援
 - ・海面浮遊ごみを回収する海面環境保全事業

② SNSを活用したゴミ拾い活動の推進

県では、日常生活の中で楽しくできる気軽なゴミ拾い意識の向上を図るため、普段評価されることの少ない県民一人ひとりの自主的なゴミ拾い活動を、SNSを活用して情報共有することで見える化したホームページ「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」を平成26年9月に開設しました（特集参照）。ゴミ拾いアプリ「ピリカ」を通じて報告のあった清掃活動のうち、県内の清掃活動のみを抽出し、リアルタイムで表示しています。

平成27年1月現在、平成26年4月からカウントしている県内活動者は延べ11,500人、拾われたゴミは270万個にも上っています。

このホームページを通して、県民の手で福井がきれいになる様子を発信し、「福井しあわせ元気国体・大会」が開催される平成30年には、どこに行ってもゴミのないきれいな福井県を目指して、ゴミ拾いという社会貢献のつながりの輪を広め、いつでもどこでもできる気軽なゴミ拾いの定着を図っていきます。



県内の清掃活動見える化ホームページ「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」

分野別施策の実施状況

コラム ゴミ拾いアプリ「ピリカ」とは

ゴミを拾って、写真に撮り、「ピリカ」に投稿するだけで世界中にゴミ拾いの様子を発信できるサービスです。平成27年1月現在、世界72か国で約1,100万個のごみが拾われています。

ピリカの仕組み

① 清掃活動を実施し、写真を撮る



② 清掃活動を投稿



企業団体の活動：
パソコンから

個人の活動：
スマホから

③ ピリカに活動者専用の清掃活動ページが自動作成されるとともに、

「クリーンアップふくい」ホームページに自動表示



クリーンアップふくい 検索

環境を想い行動する人づくり

◆第2部 分野別施策の実施状況

③「スポーツGOMI拾い大会」の実施

県では、平成30年に行われる「福井しあわせ元気国体・大会」の開催に向け、きれいな福井県を目指し、平成26年10月11日に開催された「ふるさと環境フェア2014」において、「スポーツGOMI拾い大会 in 小浜」を実施しました。「スポーツGOMI拾い大会」とは、チームで力を合わせ、制限時間内に決められたエリア内でゴミを拾い、その質と量をポイントで競い合う、子どもから大人まで年齢を問わずできる競技です。本県で初開催となる今大会は、小浜市西津海岸を会場とし、家族やスポーツ少年団、企業等により結成された20チーム、97名が参加しました。

「ゴミ拾いはスポーツだ！」のスタート発声とともに競技を開始し、漂着物やタバコの吸い殻等を中心として、燃えるゴミ197kg、燃えないゴミ55kg、危険物21kg、合計273kgのゴミが拾われました。

表5-2-4 「スポーツGOMI拾い大会 in 小浜」参加チーム一覧

チ ャ ム 名 (順位順)	
1 チーム福邦	11 チームN・K
2 西津区長会A	12 TEAM K
3 x G C	13 京福・スマイリーズB
4 おばま鼓笛隊	14 アクアテック
5 京福・スマイリーズA	15 ニチコンワカサ株式会社
6 京福・スマイリーズC	16 関電小浜
7 チーム'G'	17 サノーズ
8 A G C	18 タニーズ
9 西津区長会B	19 タカトリーズ
10 チームKSK	20 チームはびりゅう



大会の様子

④自然公園の美化【自然環境課】

自然公園美化思想の一層の普及を図るため、環境省では8月の第1日曜日を「自然公園クリーンデー」として位置付け、全国の自然公園を対象とした大規模な美化清掃活動を実施しています。

実施に当たっては、関係市町その他の団体との連携のもと、地域の一斉清掃などを行っており、平成26年度は1地区の参加がありました。

⑤河川環境美化、河川愛護月間【河川課】

河川環境美化については、地域住民等と共働で「川守」推進事業を展開し、良好な河川環境の創出に努めています。

また、毎年7月の河川愛護月間には、河川愛護のパネル展を実施し、河川愛護に関する意識の啓発を行っています。

(6) 環境教育・学習の場

県の自然保護センターや試験研究機関では、環境に関する展示や情報の提供、自然観察会等の学習機会の提供を行っています。

表5-2-5 県の主な環境教育・学習施設

施設名	概要
自然保護センター (大野市南六呂師)	<ul style="list-style-type: none"> 県内の自然を紹介する展示 プラネタリウム、天体観測施設 自然観察会等の実施
衛生環境研究センター (福井市原目町)	<ul style="list-style-type: none"> 環境情報コーナーでの環境関連図書、ビデオ等の資料の提供 見学者の受入れ
総合グリーンセンター (坂井市丸岡町楽間)	<ul style="list-style-type: none"> 森や木とふれあい、遊び学べる展示 緑と花の教室の開催 樹木を知るためのグリーンアドベンチャーの実施
海浜自然センター (若狭町世久見)	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい水槽、若狭の海などを紹介する展示 自然体験講座の開催
内水面総合センター (福井市中ノ郷町)	<ul style="list-style-type: none"> 河川や淡水魚に関することなどの展示
里山里海湖研究所 (若狭町鳥浜)	<ul style="list-style-type: none"> 里山里海湖の暮らしを伝える展示 簡単な工作体験や里山里海湖に関する相談受付